

| | | | |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 3年前期 | 3 | 2 | 選択 |
| 担当教員 | | | |
| 秋山 憲治 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | | | |
|------|---|---|--|
| 講義概要 | 人はどのように生活を思い描き、実現を図っていくのか。種々の生活のうちでも、学生諸君が必ず向き合うことになる職業生活を取り上げ、職業の考察とおして生活・人生と社会を客観的に見つめ、自分の今後のあり方と職業世界のあり方を考えることを目的とする。言い換えれば、この科目は、就職のための方便ではなく、働き方と生き方を追究するための手がかりである。 | | |
| 授業計画 | 1 | 人間と労働(1) ・総論として、社会科学における職業・労働研究の位置づけ、I類（人間・文化科目）の意義および職業・労働に関する社会科学の実践的意義について解説する。 ・職業をめぐる問題状況と課題状況を取り上げる。 ・AL①を行う。 ・準備学習：なし ・課題：なぜ無償労働が存在するのか | |
| | 2 | 人間と労働(2) ・働くこと、労働による価値の実現を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：労働は何を生み出すか ・課題：価値と労働との関係を整理するとどうなるか | |
| | 3 | 人間と労働(3) ・人間にとって労働が根源的である理由を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：大昔の人類はどのような労働をしてきたか ・課題：人間にとって労働が根源的である理由は何か | |
| | 4 | 人間と労働(4) ・労働しない人々・労働しない理由、労働しないことの背景と問題状況を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：働かない理由として何があるか ・課題：労働を軽視する文化として、どのようなものがあるか | |
| | 5 | 労働と遊び ・遊びに注目する意義、労働と遊びとの相違、労働の内容と遊びの内容との連続性を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：自家消費と市場販売との態度の違いは何か ・課題：ある種の職業内容がごっこ遊びに転化できない理由は何か | |
| | 6 | 「職業」の成立過程(1) ・職業という言葉と社会的実在、「職業」成立の前提1（分業）を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：「便利業」がとり扱う依頼内容はどの範囲か ・課題：分業していないため「職業」から除外される労働の例は何か | |
| | 7 | 「職業」の成立過程(2) ・「職業」成立の前提2（労働成果の市場交換）を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：自家消費生産と市場販売生産とにおける従事者の態度の相違は何か ・課題：市場交換されないため「職業」から除外される労働の例は何か | |
| | 8 | 「職業」の成立過程(3) ・「職業」成立の前提3（労働主体の個人単位化）を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：自営業の家族従業者はどのように働いているか ・課題：個人単位化していないため「職業」から除外される労働の例は何か | |
| | 9 | 「職業」の成立過程(4) ・「職業」成立の前提4（労働に対する理念的意味付与）を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：労働を軽視する文化は古今東西のどこに見られるか ・課題：理念的に意味付与されないため「職業」から除外される労働の例は何か | |
| | 10 | 職業の概念と機能 ・経済学的職業概念と社会学的職業概念、職業の対個人的機能と対社会的機能を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：「職業」は生活・人生どのように影響するか ・課題：職業の機能不全はどのような状態をもたらすか | |
| | 11 | 職業世界の仕組みと動向(1) ・職業の種類（分業の進行、職種、職業構成の変動、従業上の地位）を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：職業の種類はどのように分けるのか ・課題：ある従事者の職種、従業上の地位、勤務先業種はそれぞれ何か | |

| | | |
|---------------------|--|---|
| | 12 | 職業世界の仕組みと動向(2) ・「日本的雇用慣行」とは何だったのかを取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：なぜ社宅が存在するのか ・課題：年功制とは何だったのか |
| | 13 | 職業世界の仕組みと動向(3) ・「日本的雇用慣行」とは何だったのか(つづき)、およびその消滅?を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：現在の雇用に関する特徴は何か ・課題：「日本的雇用慣行」の光と影とは何か |
| | 14 | 働き方と生き方(1) ・「会社」で働くこと(個人と組織、会社での生活と文化)を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：「会社員」とはどのようなイメージか ・課題：「会社」で働くことは何を意味するか |
| | 15 | 働き方と生き方(2) ・職業をめぐる意識、企業人から職業人への課題、自律的な働き方を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：「企業人」はいつ頃、どこから、どのように生じたか ・課題：横断的労働市場の長所・短所 |
| | 16 | 定期試験 |
| 授業形態 | 講義 アクティブラーニング：①:15回, ②:0回, ③:14回, ④:0回, ⑤:0回, ⑥:0回 | |
| 達成目標 | ①人間にとって働くことの意味を具体的に理解すること(基礎) ②職業の概念と職業生活の仕組みを理解すること(標準) ③働き方と生き方を、今後の自分自身の課題として認識すること(応用) ④社会における今後の職業のあり方について、問題意識をもつこと(応用) | |
| 評価方法・フィードバック | 定期試験(60%)、レポート(40%)で総合評価する。課題は評価の対象外とし、考え方、正答などはiLearnで解説する形でフィードバックを行う。 | |
| 評価基準 | 秀(①~④)：定期試験、レポートを総合して90点以上 優(①~③)：同じく80~89点 良(①~②)：同じく70~79点 可(①)：同じく60~69点 不可：同じく60点未満 | |
| 教科書・参考書 | 教科書：なし 参考書：梅澤正『職業とキャリア』学文社 推薦図書：前田信彦『仕事と生活』ミネルヴァ書房。村松祥子他『現代生活論』有斐閣。間宏『経営社会学』有斐閣。中国新聞取材班『この働き方大丈夫?』集広社 尾高邦雄『職業の倫理』中央公論社 熊沢誠『若者が働くとき』ミネルヴァ書房 日本経済新聞社編『働くということ』日本経済新聞社 | |
| 履修条件 | なし | |
| 履修上の注意 | 真剣に受講する学生の利益を優先する。迷惑をかける学生は退室させる。 授業中の撮影、ノートパソコンやスマホの使用を禁止する。 | |
| 準備学習と課題の内容 | 準備学習：予習用課題に取り組むこと(1.5時間) 課題：毎回の授業で提示された課題に取り組むこと(1.5時間) | |
| ディプロマポリシーとの関連割合(必須) | 知識・理解:20%, 思考・判断:25%, 関心・意欲:20%, 態度:30%, 技能・表現:5% | |
| DP1 知識・理解 | | |
| DP2 思考判断 | | |
| DP3 関心意欲 | | |
| DP4 態度 | | |
| DP5 技能・表現 | | |